

# 足柄高校周辺の真正クモ類

池田博明<sup>\*</sup>・足柄高校生物部<sup>\*\*</sup>

## はじめに

相模川以西のクモ相調査は貧困である。代表的なものは池田・佐藤・稲葉(1987)に挙げておいたが、その後、足柄高校生物部クモ班の精力的な活動を知る機会を得、同校の生物部誌『かわせみ』を見せていただいた。4～5年にわたる調査のまとめが、土田耕路・大滝恵美子、および土田・大滝・安下一哉・道下幸正によって報告されている(1986, 1987)。それらは足柄高校周辺だけでなく、金時山や丹沢を含む網羅的な貴重な記録であるが、報告を子細に検討してみるといくつかの明らかな同定ミスがあった。高校生が八木沼(1960)と新海・高野(1984)の図鑑を参考に、自力で同定しているため、やむをえないミスである。しかし、せっかくの記録を放置しておくのは残念であった。

そこで、このたび、池田が足柄高校に保管されている標本をすべて同定し直した。本報文はその結果である。調査・報告にあたり、足柄高校生物部顧問・藤野雄二氏、同部長・泉本直樹氏には格段の便宜を計っていただいた。記して感謝申しあげる。

## 足柄高校周辺の真正クモ類目録

足柄高校(住所・神奈川県南足柄市怒田860)周辺で採集され、保管されていた標本をすべて再検討したが、液浸のアルコールがとんで標本が乾燥してしまったものや幼体で無理に同定されていたものは目録から除いた。また、標本ビンには採集者が記録されておらず、採集者を確定できなかった。

目録の科の配列は新海・高野(1984)により、和名・学名は八木沼(1986)によった。科内の種の配列は学名のアルファベット順とした。目録の記録中、Fはメス成体、Mはオス成体、fはメス亜成体、mはオス亜成体、yは幼体を表す。

種毎に今後の研究の指針を付記した。詳細は池田(1988 著作)にまとめてある。

なお、同定後の標本は足柄高校生物準備室に保管してある。

### ウズグモ科

#### 1. ウズグモ *Uloborus varians*

25-Ⅷ-'86, M; 16-Ⅲ-'87, y. カタハリウズグモ *U. sybotides* やトウキョウウズグモ *U. sinensis* と区別が困難で、確実な同定には成体が必要である。渦巻き状のかくれ帯を持つ水平円網を張るが、横糸には粘球がなく、餌にからみつくと梳糸を付す。幼体とオス成体はシート状円網を張る。シート状円網とは、横糸がなく、縦糸間にこまかい糸を張りつめたものだが、このような網の適応的意義は不明である。造網過程、求愛行動は記載されていない。

\* Hiroyoshi Ikeda,

神奈川県立小田原城内高等学校教諭

\*\* Ashigara sinior high school biology club, 神奈川県立, 南足柄市怒田860

## ユウレイグモ科

### 2. ユウレイグモ *Pholcus crypticolens*

27-V-'85, Fy; 19-VIII-'85, y; 20-XII-'85; 19-IX-'86, y; 16-III-'87, y; 29-IX-'87, y  
うす暗い隅に不規則網を張る。糸と足場の接点に虫がひっかかると切れる構造があり、ヒメグモ科の網と相同である。生活史の研究は不十分である。

## ヒメグモ科

### 3. ヒメグモ *Achaearanea japonica*

19-VIII-'85, f. キヒメグモ *A. asiatica* やコンピラヒメグモ *A. kompirensis* とよく似ているが、ヒメグモは歩脚末端が黒く、不規則網の下部にシート状構造を持つことから区別できる。ただし幼体ではシートを持たない網もあるようだ。母グモが子グモに給餌する。造網法は不明である。

### 4. オオヒメグモ *Achaearanea tepidariorum*

25-VIII-'86, M; 20-IX-'87, 色彩変異が多い、不規則網の端には虫がかかると切れる構造と粘球があり、歩いている虫を吊りあげる。生活史的研究は行なわれていない。中平(1983)によると、卵のう内で先にふ化した子グモが卵を食べるといふ。チリグモ、イエオニグモ、ヤマシロオニグモでもこのような卵食があるといふ。卵食は性比や生活史の問題に大きな影響を与える。

### 5. ホシミドリヒメグモ *Chryso punctifera*

3-V-'87, y 淡緑色のヒメグモで、葉間に不規則網を張る。糸全体に粘球を持つ。亜成体越冬で初春に成体となる。行動の記録はほとんどない。この属はコガネヒメグモ *C. venusta* で、母グモが子に給餌するのが観察されており、本種でもその可能性がある。

### 6. カニミジグモ *Dipoena mustelina*

25-VIII-'86, FM; 16-III-'87, F. 腹部斑紋に変異が多い。樹葉間、草間を徘徊し、近くを通る大型のアリに糸をかけて捕らえる。初春にも成体が出現する。生活史の研究、行動の記載はほとんどない。

### 7. バラギヒメグモ *Theridion chikunii*

16-III-'87, y; 18-IV-'87, M; 3-V-'87, F. 樹木の葉裏に糸で簡単な住居を作り、テント状の不規則網を張る。網の下側から獲物に粘糸をかける。行動の記録はほとんどない。

### 8. ムナボシヒメグモ *Theridion sternotatum*

30-IV-'85, y. サトヒメグモ *T. adamsoni* に似ており、区別は難しい。ムナボシの方が小型である。標本は幼体の為、断定し難いが、紋様はムナボシに似ている。クモを襲うクモである。ヒメグモ科、サラグモ科のクモの網に侵入し、網主を襲う。捕獲行動は新海明により記述されたが、求愛および交接行動の記録はない。

## サラグモ科

### 9. クスミサラグモ *Linyphia fusca*

4-V-'86, FM. ムネグロサラグモ *L. nigripectoris* によく似ており、生殖器以外の区別は困難

である。成体の出現期がムネグロサラグモより1ヶ月程早い。枝先にハンモック網とよばれる皿網を張る。糸には粘性がなく、弱々しく飛ぶ空中浮遊昆虫が主な餌である。産卵場所や卵数は不明。行動の研究もない。

10. ヘリジロサラグモ *Linyphia oidedicata*

16-III-87, y. 下草の間の地面に近い所にシート網を張る。広く分布し、サラグモ科では最も目につく。しかし、生態・行動の詳細な研究はない。

11. ユノハマサラグモ *Linyphia yunohamensis*

3-V-87, F. 山地に多い。枝葉間にドーム網を張る。メスに比べてオス成体の出現期は短く、地域差があるという。定量的な生活史研究、行動の研究はされていない。

12. ヨツボシサラグモ *Strandella quadrimaculata*

3-V-87, M; 20-IX-87, y. ヒメヨツボシサラグモ *S. yaginumai* や サザナミサラグモ *S. fluctimaculata* と区別が難しい。広葉樹の葉裏に多く、時にシート網を張るという。生態および行動の記録はない。

### センショウグモ科

13. センショウグモ *Ero japonica*

19-VIII-85, y; 20-XI-85, y; 16-III-87, y; 18-IV-87, y. クモを襲うクモである。ヒメグモ科、サラグモ科、コガネグモ科のクモがよく襲われる。飼育下では小型の昆虫も襲うという。捕獲に糸を使わず、相手にかみつ়く。同属で、オスの求愛信号をまねてメスをおびき寄せた例が報告されているが、日本の種では観察されていない。

### コガネグモ科

14. イシサワオニグモ *Araneus ishisawai*

4-V-86, y. 樹間・草間に大型の垂直円網を張る。造網法、生態、行動の研究はない。

15. アオオニグモ *Araneus pentagrammicus*

3-V-86, y. 樹間にキレ網を張り、その一端の葉を丸めて天幕を張って住居を作る。ビジョオニグモ *Araneus mitificus* に網性や習性は似ているが、成体出現期は5~7月と、ビジョオニグモより早い。造網法、行動の記録はない。

16. マメオニグモ *Araneus* sp.

3-V-87, F. カラオニグモ *A. viperifer* に似ていて、色彩変異が多い。山地に多い。垂直円網、呼糸円網を張る。造網法、行動研究はない。

17. ムツボシオニグモ *Araniella* sp.

3-V-86, m. 垂直円網を張る。ハナオニグモと同種である。造網および生態、行動の研究はない。

18. ナガコガネグモ *Argiope bruennichi*

19-IX-'85, f; 19-IX-'86, Fy. 草間の低い所に垂直円網を張る。幼体のかくれ帯はジグザグの糸が不規則に集まった形である。危険を感じると網をゆるす。秋に特異な形をしたつぼ型の卵のうを作る。ファーブル以来、よく研究されているが、定量的研究は不十分である。

19. ヤマトカナエグモ *Chorizopes nipponicus*

4-V-'86, f. クモを襲うクモである。しかし、飼育ビン内では夜間、不規則に糸を張るという。

20. ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba*

23-V-'86, F. 草間に垂直円網を張り、頭を上にして静止する。かくれ帯は円形や直線状、ゴミは少い。成長するにつれゴミをつけるようになる。生態・行動の研究はほとんどない。

21. コガネグモダマシ *Larina argiopiformis*

3-V-'87, F. 草間に垂直円網を張る。夕方造網する個体が多い。よく似た別種が数種いるようだが、未だ明確でない。生活史や行動の研究はない。

22. メガネドヨウグモ *Metleucauge yunohamensis*

20-XI-'85, y; 16-III-'87, f; 3-V-'87, f. 水辺に大きな水平円網を張る。頭胸部に特徴的なメガネ紋がある。卵のうは確認されておらず、産卵期も6~7月と思われるが確認されていない。大きさに関係なく、網にかかった獲物はすべて捕らえる。

23. ジョロウグモ *Nephila clavata*

19-VIII-'85, my; 13-IX-'85, F; 19-IX-'85, F; 25-VIII-'86, My; 19-IX-'86, F. 6月から幼体が見られ、夏から秋に最も普通。網は蹄型円網という特異な型で、造網法も他のコガネグモ科のクモと異なる方法で行なう。脱皮も頭胸部の殻が腹部に近い方から離れる型で、他のコガネグモ科のクモとは異なる。オスはメスより早く成熟し、メスの網を訪れ、メスの最終脱皮を待って、求愛し、交接する。晩秋に産卵された卵は途中で発生を停止し、翌年の6月に発生を再開するが、その生理的機構は明らかではない。

24. ヤミイロオニグモ *Neoscona fuscocolorata* ?

25-VIII-'86, y. 色彩変異が多い。腹背前部に特有の心臓斑がある。類似の別種が生息しており、生殖器以外の区別は困難である。本標本は幼体のため、断定しがたい。正常な円網、一部が切れたキレ網、呼糸円網を張る。造網法、行動の記載はない。

25. ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla*

27-V-'85, fm; 19-VIII-'85, m; 23-V-'86, y; 25-VIII-'86, F; 18-IV-'87, y. 木や草の間に垂直円網を張る。色彩変異が多いが、それらを生態的または遺伝的に分析した研究はない。普通種であるが、行動的研究もほとんどない。餌捕獲、造網、求愛、交接といった行動の記載も皆無である。昼間は物陰に隠れているが、夕方になると造網する。朝は網をこわしてしまうが、中には張ったままの個体もある。

26. サツマノミダマシ *Neoscona scylloides*

12-VII-'83, F. 垂直円網を夕方から張り出す。行動の記載、生活史的研究はない。

27. コオニグモモドキ *Pronous minutus*

20-IV-'84, y; 3-V-'87, y. 網は不明である。生態・行動の研究はない。

28. カラフトオニグモ *Zilla sachalinensis*

18-IV-'87, m; 3-V-'87, m. 初春に最も早く出現するオニグモ。幼体ではサガオニグモ *Z. astridae* との区別は困難である。色彩・斑紋に変異が多い。行動研究はほとんどない。

### アシナガグモ科

29. オオシロカネグモ *Leucauge magnifica*

25-VI-'83, F. 幼体ではコシロカネグモ *L. subblanda* との区別はできない。成体でも生殖器で確認すべきである。草間に水平円網を張る。餌の多い環境に造網した個体は早く成長、産卵して死亡する。空いた空間には周辺から他個体に移入してくるという。吉田真によって、もっともよく生態の研究されている種である。

30. ヤサガタアシナガグモ *Tetragnatha maxillosa*

25-VI-'83, M. アシナガグモによく似ているため、幼体では区別が困難である。水平円網を張る。親は子グモの侵入を許さず、子グモは他種の網に侵入して餌を盗む。求愛、交接などの行動は記載されていない。

31. アシナガグモ *Tetragnatha praedonia*

23-V-'86, M; 25-VIII-'86, y; 16-III-'87, y; 18-IV-'87, y. 前種とほぼ同様だが、共存域では、足場に枝先を使うため、やや高い所に造網するという。餌捕獲、求愛、交接行動が記録されている。

32. ウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata*

4-V-'86, y; 25-VIII-'86, fm; 18-IV-'87, y. 広く分布する。エゾアシナガグモ *T. yesoensis* に似ており、殊にメスでは区別が難しい。樹木や葉間に小さな水平円網を張るが、網を離れて獲物を捕えている例も多い。葉裏に淡緑色の卵のうを作る。

### タナグモ科

33. クサグモ *Agelena limbata*

12-VII-'83, F; 10-VII-'84, My; 27-V-'85, y; 19-VIII-'85, FM. 生垣や樹木の枝ぶりの良い所に管状住居のある棚網を張る。コクサグモより早く成長し、成熟も7月からと早い。9月頃に産卵、常緑樹の枝先に多面体の卵のうを作り、母グモは産室で保護している。子グモは卵のう内でふ化し、2令で越冬する。越冬初期から冬至までは短日条件で、冬至以後は低温によって出のうが抑制される。初春に出のうし、分散する。近年、市街地では個体数が激減している。夜間、網を補修する。アフリカには同属で社会性の種が生息している。

34. コクサグモ *Agelena opulenta*

21-VI-'83, y; 12-VII-'83, y; 10-VII-'84, y; 1-VI-'85, y; 19-VIII-'85, y; 25-VIII-

'86, my ; 19-IX-'86, FMy. 成熟はクサグモより約1ヶ月遅れる。幼体は糸いほの近くの腹背後端に橙色の点を持つことで、クサグモと区別できる。最近、良く似た別種が発見されたので、成体を確認する必要がある。卵のうは円盤状で、クサグモと異なり卵越冬する。初春にふ化し、脱皮、出のうする。餌捕獲、求愛行動など定性的な記述はされているが、定量的な研究はされていない。

### ハシリグモ科

35. イオウヒロハシリグモ *Dolomedes sulfreus*

4-VI-'83, y ; 25-VIII-'86, y ; 19-IX-'86, y ; 16-III-'87, y ; 18-IV-'87, y. 草間に普通、スジボケ型、スジプト型、イオウヒロ型など変異が多く、1977年頃までは別種とみなされていた。中平清の飼育による遺伝的研究の結果、同種であることが判明した。似た別種にスジプトハシリグモ *D. pallitarsis* がいる。

### キシダグモ科

36. アズマキシダグモ *Pisaura lama*

20-I-'86, f ; 19-IX-'86, y. 変異が多く、アズマ型・タテスジ型・キスジ型・ヤマジ型などと呼ばれる。これらも前種同様、かつては別種とされていた。オスの触肢構造から同一種とされたが、遺伝的な交配実験は未だ行なわれていない。オスは成熟すると、捕えた獲物をメスにさし出し、メスがそれを食べている間に交接する。クモでこのような婚姻贈呈を行う種は英国の同属のクモに次いで二番目であり、板倉泰弘が1986年に確認した。

### コモリグモ科

37. ハラクロコモリグモ *Lycosa coelestis*

16-III-'87, F. 大形で成体では同定は容易。12~7月に成体が出現し、産卵は5~6月、卵のうを作ると地中にもぐって保護する(新海・高野、1984)。生活史・行動・生態研究ともない。

### ササグモ科

38. ササグモ *Oxyopes sertatus*

2-VI-'83, M ; 10-VII-'84, FM ; 19-IX-'85, y ; 25-VIII-'86, y ; 19-IX-'86, y ; 20-IX-'87, y. 草間に徘徊する。幼体はクリチャササグモ *O. badius* の幼体とよく似ているが、クリチャササグモの分布は局所的である。8~9月に産卵、母グモは卵のうを抱いて保護する。求愛行動の定量的研究はなく、求愛や応答の条件などは未だ明らかではない。目前の虫を次々に捕獲し、かみ殺すので、森林害虫の天敵として適している。

## カニグモ科

### 39. キハダカニグモ *Bassaniana decorata*

18-IV-'87, y. 樹皮上を徘徊し、冬期は樹皮下で越冬する。交接や求愛行動は記載されていない。葉上や樹皮上に産卵し、母グモは卵のう上で保護する（卵が未受精卵であっても、保護しつづける）。普通種だが、生態や行動記録は少ない。

### 40. アマギエビスグモ *Lysteles coronatus*

4-V-'86, FM; 16-III-'87, y. 草間を徘徊する。この属にも似た別種があるので、成体で確認する必要がある。詳しい行動記録、生態記録はない。

### 41. ハナグモ *Misumenops tricuspidatus*

18-IV-'84, y; 19-VIII-'85, y; 23-V-'86, y; 19-IX-'86, y; 18-IV-'87, m. この属では最も大きい。幼体ではコハナグモ *M. japonicus* やクマダハナグモ *M. kumadai* と誤認するおそれがある。自分の体より大きな獲物を捕ることができる。日本および中国で生活史が判明している。

### 42. ワカバグモ *Oxytate striatipes*

4-V-'86, F. 緑色のカニグモで同定は容易。成体が出現する期間は4~10月と長い。詳細な生活史研究は未だない。葉上徘徊性、葉の表面で第1脚を高く持ち上げ、飛んでくる昆虫を持っている。羽音がすると、その方向に体を向け、持ち上げている第1脚を左右上下に動かす。産卵後、卵のう上で保護する。

### 43. ガザミグモ *Pistius undulatus* (本種の学名は小野展嗣による)

1-VI-'85, y; 25-VIII-'86, y; 18-IV-'87, f. 葉上を徘徊。特異な形態で同定は容易。オスはメスより早く成熟し(5月)、亜成体メスの腹部につかまって、メスの成熟を待つ。求愛行動の詳細は記載されていない。

### 44. アズチグモ *Thomisus labefactus*

15-VI-'86, y. 25-VIII-'87, M. 草間、葉上を徘徊。前種同様、オスは早く成熟して亜成体メスにつかまって、メスの成熟を待つ。黄色のダリア上で、24時間かけて体色を白色から黄色に変えたという記録がある。逆に淡黄色から白色への変化の記録もある。行動的研究はほとんどない。

### 45. ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus*

2-VI-'83, F; 23-V-'86, F. 同属の別種が多く、幼体では区別が困難である。草間、葉上、下草の間で、獲物を待ち伏せている。葉上に産卵し、母グモは卵のうを保護する。求愛行動の記録はない。

## エビグモ科

### 46. キンイロエビグモ *Philodromus auricomus*

2-VI-'83, f; 18-IV-'84, f; 23-V-'86, fm; 16-III-'87, y; 18-IV-'87, y. 「エビグモ」とされてきたハラジロ型と「キンイロエビグモ」とされてきたキンイロ型がある。足柄高校周辺で採れているのは、ハラジロ型である。

47. アサヒエビグモ *Philodromus subaureolus*

2-VI-'83, Fm; 30-IV-'85, y; 1-VI-'85, y; 20-XII-'85, y; 23-V-'86, m; 25-VIII-'86, y; 16-III-'87, y; 18-IV-'87, y. 葉上に多い。非常に個体数が多い。浜村徹三の研究により日長が本種の生活史を決めていることが判明した。夏季の長日で若令期の成長が抑制され、秋季の短日により長日型へ変化する。春季の長日条件で一斉に成体となる。年1化性。行動的研究はされていない。産卵後、卵のうを保護する。

48. ヤドカリグモ *Thanatus formicinus*

20-IX-'87, y. 葉上、落葉上を徘徊。餌捕獲、求愛、交接、産卵行動の記録や、産卵数、卵のうの記録などは、ほとんどない。

49. シャコグモ *Tibellus tenellus*

20-IV-'84, f; 19-VIII-'85, F; 23-V-'86, fy; 25-VIII-'86, y; 19-IX-'86, y; 16-III-'87, y; 18-IV-'87, y. 草間、葉上を徘徊。近似種スジシャコグモ *T. oblongus* は山地性である。卵のうは葉裏に作り、母グモは保護する。身近な普通種でありながら、行動的研究は、ほとんどない。

### ハエトリグモ科

50. ヤマジハエトリ *Aelurillus festivus*

1-V-'85, y; 25-VIII-'86, y; 19-IX-'86, y; 18-IV-'87, y. 地表徘徊性・行動の研究はほとんどない。

51. イナズマハエトリ *Euophrys undulato vittata*

25-VIII-'86, y. 樹皮上徘徊性。冬期は樹皮下に潜むが、ミノガのミノを越冬巣としてよく利用するという。

52. マミジロハエトリ *Evarcha albaria*

17-X-'85, y. 葉上を徘徊する。アリの運ぶ卵・幼虫・さなぎを略奪する。普通種であるが、行動の研究はほとんどない。

53. アリグモ *Myrmarachne japonica*

23-V-'86, M. 幼体ではヤサアリグモ *M. innermichelis*, クワガタアリグモ *M. kuwagata*, タイリクアリグモ *M. formicaria* と区別が困難である。これら4種の内、比較的よく習性の研究されているのはヤサアリグモのみである。

54. カラスハエトリ *Rhene atrata*

18-IV-'87, y. 葉上徘徊性。よく似た別種があるので、同定には注意が必要である。本種は第1脚脛節下面の突起が「2本-1本」で、別種は「1本-1本」である。生活史、行動研究とも不十分。

55. アオオビハエトリ *Silerella vittata*

18-IV-'87, y; 29-IX-'87, y. 地表を徘徊する。アリやアリの運ぶ幼虫を捕食する。樹皮下に袋状住居を作り越冬する。餌捕獲や求愛、威かく行動などの記録がある。



56. ムツバハエトリ *Yaginumanis sexdentatus*

18-IV-'87, F. 腹背に特有の紋様がある。山地の岩場を徘徊することが多い。樹皮下に袋状住居を作り、その中で越冬する。生態・行動研究ともない。

### フクログモ科

57. カバキコマチグモ *Chiracanthium japonicum*

10-VII-'84, F; 23-V-'86, Y; 19-IX-'86, Y. ススキの葉を巻げて住居を作る。毒性が強く、かまれると、半日から1日も痛むという。夜間に活動して昆虫を捕えるが、夜間の観察記録はほとんどない。オスが求愛するとメスは眠ってしまうようだ。葉を巻いて雌雄同居しているのをよく見る。産卵後、二週間程で出のう、脱皮した子グモは親を食べる。このような習性は他種では知られていない。寄生蜂に寄生される。

### ウエムラグモ科

58. ウラシマグモの一種 *Phrurolithus* sp.

18-IV-'84, M. ウラシマグモ *P. nipponicus* に似るが、腹背中央の白線の後方にも中央で切れた横帯がある。「キレオビウラシマグモ」と仮称している。ウラシマグモより小形で、やや成熟が早い。ウラシマグモと同所的に生息しており、両種の生態的關係は不明である。餌捕獲行動、交接姿勢、卵のう、産卵数などは小田原市のデータしかない。

59. ネコグモ *Trachelas japonica*

1-VI-'85, F; 16-III-'87, f; 18-IV-'87, My. 草間、落葉中、地表を徘徊する。冬期にも成体が見られるが、生活史は明確になっていない。餌捕獲、求愛、交接などは記載されていない。行動・生態研究とも不十分である。

### アシダカグモ科

60. コアシダカグモ *Heteropoda forcipata*

30-VII-'86, Y. アシダカグモと異なり、屋内ではほとんど見られない。夜間徘徊し、コオロギなどの昆虫を捕食する。生活史、行動の研究はない。朽木の中などで越冬している。

### おわりに

足柄高校周辺で採れたクモは、ほとんどこの地域の普通種である。しかし、その普通種でさえ、生態や行動はきちんと研究されていない。より多くの人々が、この身近なクモを観察して下さることを願うばかりである。日本では八木沼の図鑑の新版(1986)の他、新海・高野『クモ基本50』(1987)、吉倉真『クモの生物学』(1987)、千国安之輔『クモ写真図鑑』(1988)が出版され、クモの研究は活気づいている。さらに筆者も『クモ生理生態事典』(1988)を出版した。外国では新たな観点からクモの

博物学全般が見直されている。地域の普通種を基本にすえた研究が始められてよい時期なのである。なお、南足柄市に関しては大雄山の報告（新海・熊田、1987）がある。

## 参 考 文 献

- 千国安之輔 1988 クモ写真図鑑．偕成社（印刷中）
- 池田博明・佐藤伸一・稲葉茂代 1987 小田原市内4箇所の社寺林（蓮昌寺・大蓮寺・真福寺・大稲荷神社）の真正クモ類．神奈川自然誌資料（8）：99～105
- 池田 博明 1988 クモ生理生態事典．著者自刊
- 中平 清 1983 クモのふるまい．著者自刊
- 新海栄一・高野伸二 1984 クモ．東海大学出版会
- 新海栄一・高野伸二 1987 クモ基本50．森林書房
- 新海栄一・熊田憲一 1987 大雄山杉林の真正クモ類．神奈川県天然記念物地域動物調査報告書：81-97
- 土田耕路・大滝恵美子 1986 蜘蛛の分布調査．かわせみ（3）：3 - 20
- 土田耕路・大滝恵美子・安下一哉・道下幸正 1987 蜘蛛の分布調査 かわせみ（4）：77 - 114
- 八木沼健夫 1960 原色日本蜘蛛類大図鑑．保育社
- 八木沼健夫 1986 原色日本クモ類図鑑．保育社
- 吉倉 真 1987 クモの生物学．学会出版センター

(昭和63年3月)  
小田原市郷土文化館研究報告No.24抜刷

# 足柄高校周辺の真正クモ類

池田博明

小田原市郷土文化館

1988